

189

こんにちは。塾長の大井です。

みなさんは入試の倍率のことはご存知だと思います。言うまでもなく、募集人数(合格者数)に対する応募人数(受験者数)の割合を示すものです。

入試シーズンになると、よく「今年は倍率が低いのでチャンスだ。」とか、「あの学校は倍率が高いので回避しよう。」などと言う声が聞こえてきます。

もちろん倍率は無視できないですし、ハードルの高低の一つの指標にはなるかもしれませんが。

ですが、実際のところ、「あの入試の結果は倍率によって左右された・・・。」ということは、私たちの教え子には思い当たりません。どんな高倍率でも生き残る子は勝ってくるし、またいかに低倍率でもやられる子はやられます。

そういう意味で、私は「倍率は常に2倍なんだ。」と子どもたちに話

しています。

なぜなら、相応の期間をかけて準備し、相応の実力を持っていたとしても、当日得点(証明)できなければ相手に関係なく敗れ去ってしまうからです。

受験生には都内だけでなく、首都圏、そして全国に無数のライバルたちが存在します。合格するには、そのライバルたちに勝利せねばなりません。

でも、強い相手に勝つためには、何よりもまず弱い自分に克たねばなりません。勝負の世界において、最大のライバルはいつだって自分自身なのです。

これは入試当日に限ったことではありません。日常の、毎日の、一日一日に問われる姿勢です。

どんな強者も誰も初めから強いわけではありません。彼らが強くなったのは、多くの失敗、挫折を経験し、それでも弱い自分に負けなかったからです。いつかなれるかもしれない強い自分をあきらめなかったからです。

負けると不安に襲われます。自信もしぼんでいくでしょう。

だからこそ自分を信じられるまでやるしかありません。本当の自信は与えられるものではなく、勝ち獲るしかないのです。

TOP ではそういう意志の強さこそを、才能と呼んでいます。

「成長したい。負けたくない。」

そう強く想えるチカラは、まぎれもない最高の才能です。

お子さんの成長を願うなら、ぜひ強く強く念じて下さい。

「負けるな。君ならできる。」と。

2018年7月9日

大井雄之